

人生を変えた一言

Sさんは順調な出世街道を送っていました。ところが責任と同時に仕事の量も10倍に増え、いくら頑張っても先が見えなくなり、あせりが募り眠れなくなっていました。そしてうつ病と診断され3年後に休職となり、妻も去って行きました。マンションの屋上から飛び降りましたが、脚の骨折だけで奇跡的に助かりました。

歩けるようになり、あても無く外出した時のことです。電車の中で何気なく席を譲った老女から繰り返し「有難うございます」とお礼を言われました。すると突然深い感動が甦ってきたのです。「人生に絶望した男なのに、今こんなに喜んでもらっている。自分にも他人のために出来ることがあるのだ。そうだ、惨めな経験でお役にたとう」

彼は講習を受けて、カウンセラーの道を歩み始めました。Sさんとの出会いによって、うつ病のつらさを慰められ、生きる新たな望を得た人が大勢生まれました。絶望していたSさんに、この様な命が残っていたのです。「生きていて良かったなー」としみじみ感謝しているそうです。

何とも痛ましい出来事

ふじみ野市で、32才の母親が3才の我が子を投げ飛ばしたら、首の骨が折れて死んでしまいました。トイレに行きたいと言わずにお漏らししてしまったので、カッとなってしまったのだそうです。小さな4人の子育ては、毎日が戦争のようだったことでしょう。母親が逮捕され、残された3人の子供たちはどうなるのでしょうか。

「いらいらして切れてしまった」——この母親だけではありません。子供でも若者でも、年配者でも切れやすくなったと言われていています。本当に恐ろしいですね。心にゆとりを持つことです。ゆとりは優しさから生まれます。優しい心は、優しく大事に育てられることによって育ちます。この母親は自分の母から本当の優しさをもらわなかったのではな

いでしょうか。

クリスマスの喜び

クリスマスはご存知の通り、イエス・キリストの誕生を祝う祭りです。キリスト(救い主の意)の誕生した年を元年として歴史を数える西暦で今年(2015年)ですから、キリストは2015年前に誕生したことになりますが、正確な年月日はよく分かりません。場所はイスラエルの小さな田舎町ベツレヘムの家畜小屋でした。

近くの野原で夜通し羊の群れの番をしていて、**飼い葉桶**の中に寝ている**乳飲み子**を見つけるであろう。これがあなたがたへの**しるし**である」

飼い葉桶の中に寝かされている乳飲み子なのですから、母親は家畜小屋で出産したのでしょう。戦乱の巷ならいざ知らず、家畜小屋で生まれる子など滅多にいません。それなのにこの **最も貧しいイエスの誕生**が、2000 年の昔から世界中で祝われてきました。ですからクリスマスのテーマは**貧しさ**です。

そのままがいいんだよ

イエス・キリストは汚い家畜小屋で生まれ、飼い葉桶に寝かされました。**惨めな境遇**に置かれた**小さく無力な命**です。でも クリスマスの賛美歌「**きよこの夜**」はこう歌います。

“救いの御子はまぶねの中に 眠りたもういと**安く**”

“**御子の笑み**に恵みの御代の **あしたの光輝**けりほがらかに”

汚い飼い葉桶のベットでも、イエス・キリストは笑顔を見せて**安らかに**眠っています。**豊かな恵みと希望の光**が輝いています、という歌です。

神さまがこの世に送ってくださった救い主は、どんなに貧しく汚くむさくるしい所にも、静かに優しく臨んで下さり、**嘆き悲しむ心に平安と喜び**を与え、明日の**希望**を輝かせてくださる救い主なのです。どのように惨めな境遇の人の傍らにでも、そっと寄り添い、**一緒に生きてくださる救い主**なのです。

クリスマスです。教会の礼拝に集い、貧しい家畜小屋で生まれた救い主の呼びかける声を、お聞き下さいませんか。

“わたしの目に **あなたは価高く貴い**” **聖書**

